

伊豆東部火山群の噴火に対する緊急減災計画の取り組み

◆伊豆東部火山群とは

伊豆東部火山群は、伊豆半島東部に位置する東伊豆単成火山群及び、その東方海底に広がる東伊豆沖単成火山群の総称になります（図1）。
 観光地として知られる大室山も本火山群を代表する火山であり、約4000年前の噴火で形成されました。**平成元年7月13日には、伊東市沖の手石海丘で有史以来初の噴火がありました（写真1）。**
 伊豆東部火山群の火山噴火緊急減災対策砂防計画は、国と県が共同で平成28年度に設置した検討会で議論が行われ、平成30年には噴火影響範囲が見直され（図2）、平成31年3月に**単成火山群としては日本で初めて**となる計画を策定しました。

▶ 計画策定経緯

- 平成28年2月 火山災害警戒地域に指定
- 平成29年1月 伊豆東部火山群火山噴火緊急減災対策砂防計画検討会設置
- 平成31年3月 火山噴火緊急減災対策砂防計画策定

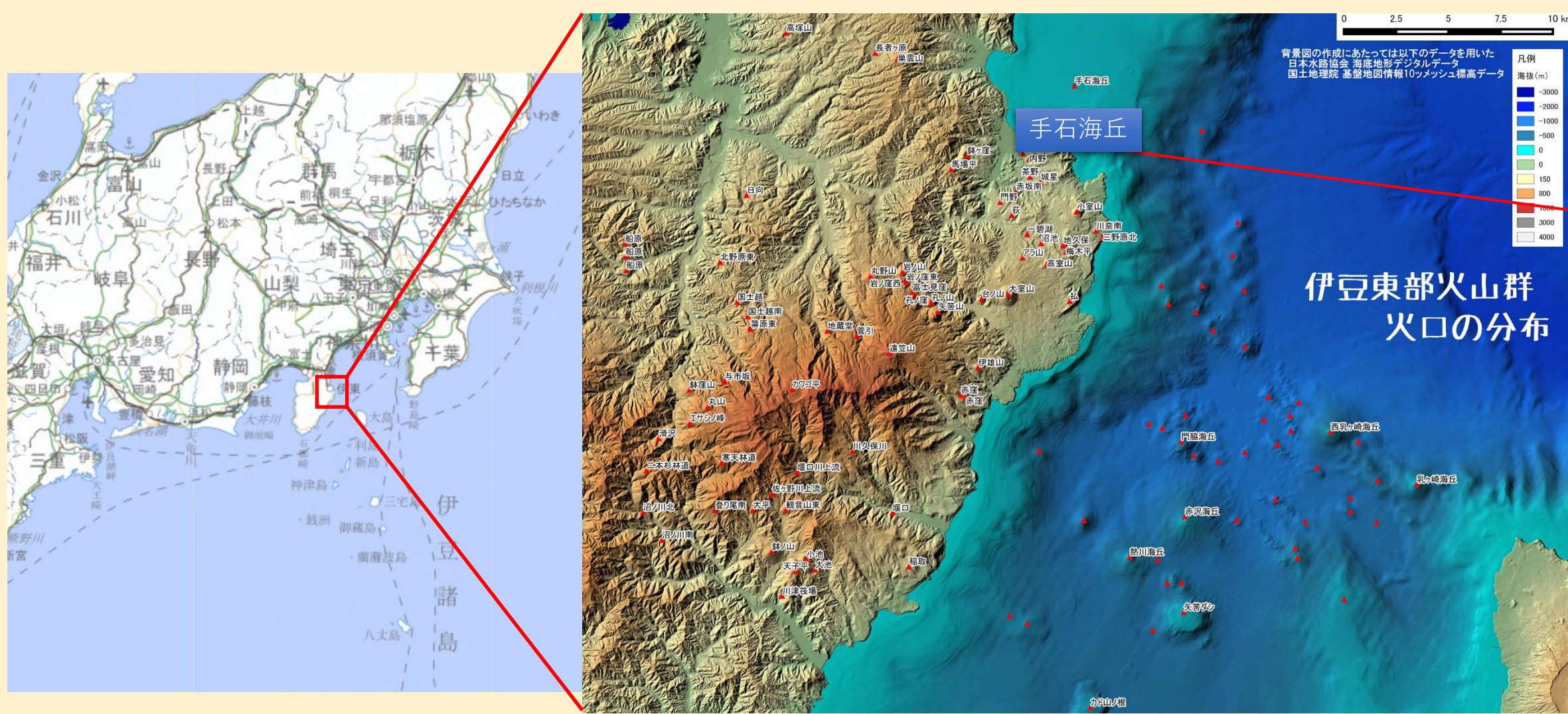


図1. 伊豆東部火山群位置図
 （伊豆半島ジオパークHP（2023年9月20日閲覧）より引用・加筆）

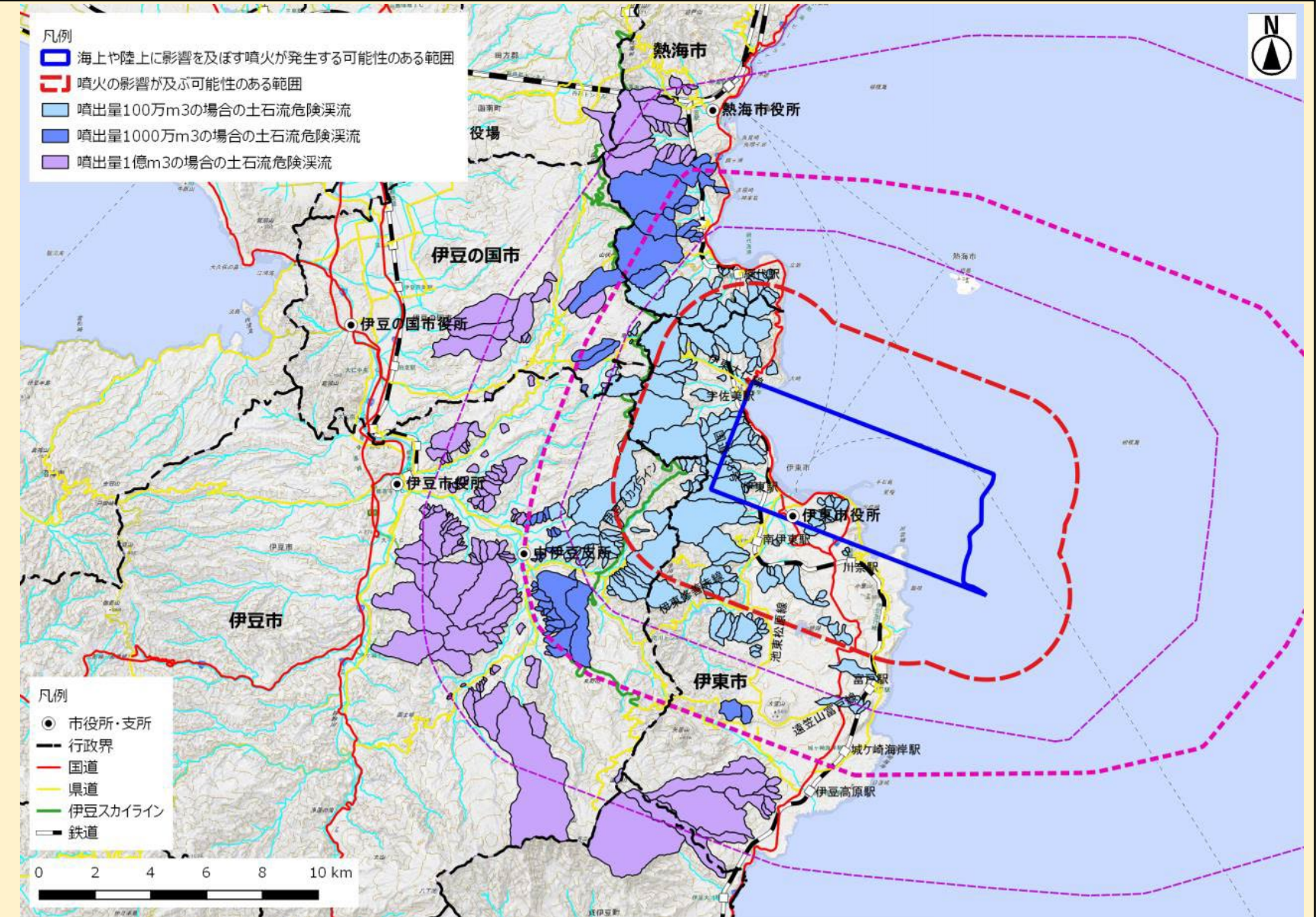


図2. 噴火影響範囲
 （伊豆東部火山群火山噴火緊急減災対策砂防計画【計画編】より引用）

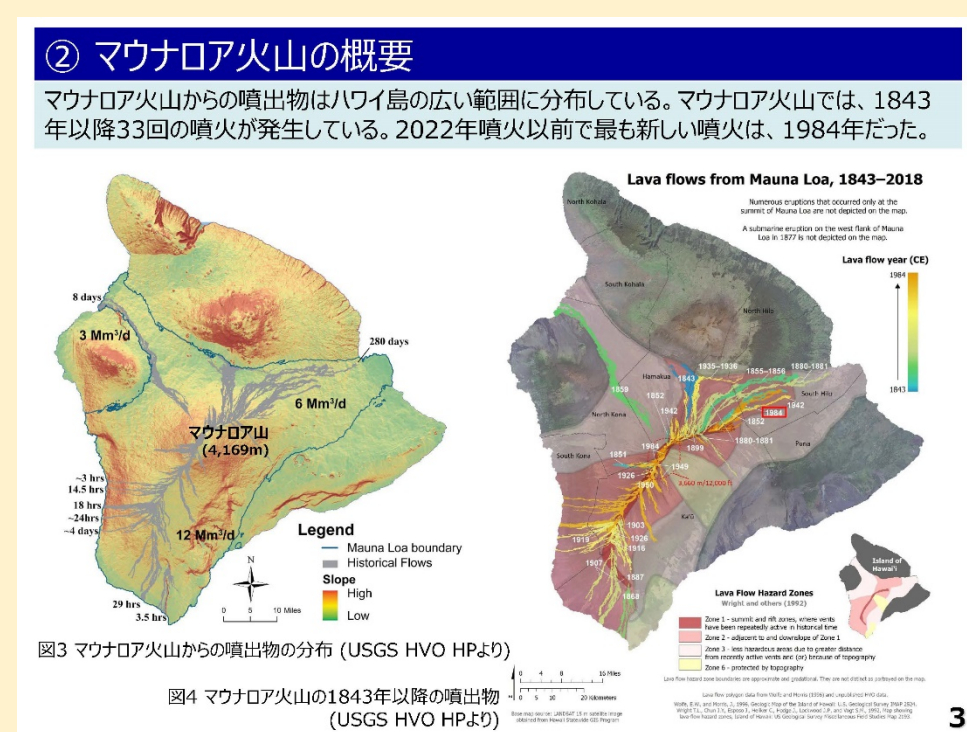


写真1. 平成元年7月13日の伊東沖での噴火
 （海上保安庁撮影，日本活火山総覧（第4版）より引用）

◆ 事務所としての近年の取り組み

- ①関係行政機関で構成される連絡会議の実施**
 →国や県、市職員や大学教授を招き、各種取組の進捗状況報告や火山に関する勉強会（図3）を実施。（令和5年3月第5回）
- ②緊急減災対策（ハード、ソフト）の具体化**
 →土石流シミュレーション結果に基づく被害想定区域図から、保全対象や現地状況を踏まえ緊急減災ドリルを作成（図4）。
- ③緊急時のソフト対策に関するタイムライン検討**
 →火山活動の推移に合わせたタイムライン（図5）・チェックリストを作成し、本局と事務所の初動対応、役割分担を確認。
 →国土交通省で整備を進めているリアルタイムハザードマップシステムの説明会や、緊急調査研修への参加。

①



③

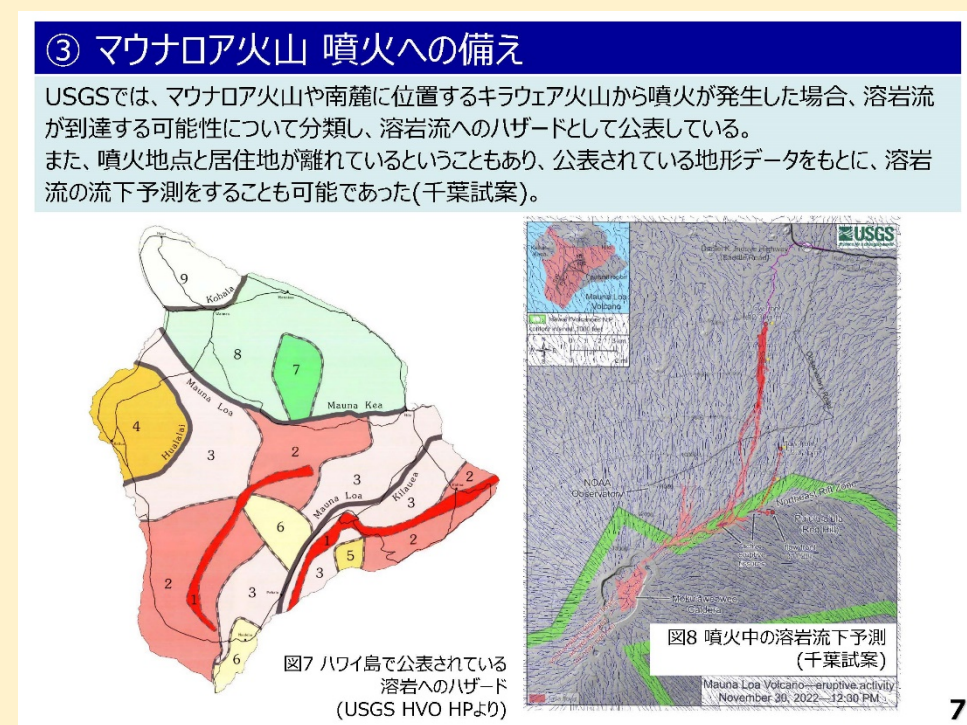


図3. 勉強会資料（世界における近年の火山噴火概要）

②

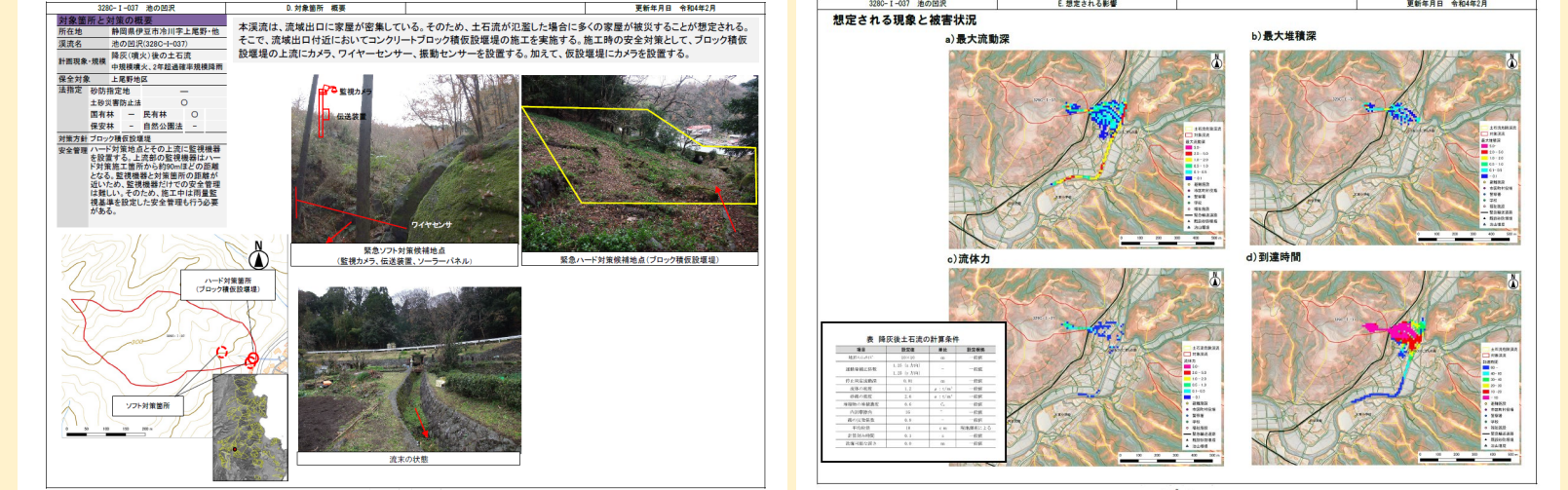


図4. 緊急減災ドリルの作成例

③

想定される現象のイメージ	1 (噴火発生) 2 (噴火継続)	3 (噴火継続)	4 (噴火継続)	5 (噴火継続)	6 (噴火継続)
噴火警戒レベル	1 (注意)	2 (警戒)	3 (準備)	4 (避難)	5 (避難)
避難対策支援のための準備	住民、観光客に対する防災意識啓発 (監視カメラ映像、音声案内、火山防災マップ等)	自動降圧装置や監視カメラ等の監視機能確保	住民、観光客への注意喚起 (監視カメラ映像、音声案内、避難誘導マップ等) 避難誘導の準備 (避難経路の確保、避難誘導マップの配布)	住民、観光客への注意喚起 (監視カメラ映像、音声案内、避難誘導マップ等) 避難誘導の準備 (避難経路の確保、避難誘導マップの配布)	住民、観光客への注意喚起 (監視カメラ映像、音声案内、避難誘導マップ等) 避難誘導の準備 (避難経路の確保、避難誘導マップの配布)
監視・観測体制の強化	自動降圧装置や監視カメラ等の監視機能確保	監視カメラ映像、音声案内、避難誘導マップ等の提供	監視カメラ映像、音声案内、避難誘導マップ等の提供	監視カメラ映像、音声案内、避難誘導マップ等の提供	監視カメラ映像、音声案内、避難誘導マップ等の提供
リアルタイムハザードマップの提供	リアルタイムハザードマップの提供	リアルタイムハザードマップの提供	リアルタイムハザードマップの提供	リアルタイムハザードマップの提供	リアルタイムハザードマップの提供
光ケーブルなどの埋設工事の整備	埋設工事の整備	埋設工事の整備	埋設工事の整備	埋設工事の整備	埋設工事の整備
火山噴火時の緊急調査	噴火発生時の緊急調査	噴火発生時の緊急調査	噴火発生時の緊急調査	噴火発生時の緊急調査	噴火発生時の緊急調査

図5. 緊急時の各タイミングで実施すべきソフト対策の基本項目
 （「伊豆東部火山群火山噴火緊急減災対策砂防計画【計画編】」（平成31年3月）より引用）

◆今後の取り組み

計画の推進のため、とりまとめた緊急対策に係る具体的な取組内容を整理し、取組の実施主体と関係機関で調整・連携を図っていく。